



「あじさい」 下田 照美 画

宇城総合病院広報誌

れいめい

2014
6月
夏号

目次

ごあいさつ	①	栄養科レシピ	⑤
診療科だより ～消化器内科～	②	連携室便り	⑥
新入職医師の紹介	③	保険外併用療養費	⑦
リハビリ便り	⑤	外来医師担当表	⑦



社会医療法人 黎明会

宇城総合病院

■発行／社会医療法人黎明会 宇城総合病院 広報委員会
〒869-0532 熊本県宇城市松橋町久具691
TEL.0964-32-3111 FAX.0964-32-3112
URL <http://www.reimeikai.jp/>



病院長 江上 寛



現在地に新築移転して2年半が経過しました。この間、医療界は大きな変換点を迎え、在宅医療の推進、さらには医療、介護の連携を含めた包括ケアの推進へと舵が切られました。新しい時代へ向け病院でも様々な機能修正を行っています。その中で最近3つの大きな変化がありました。一つ目は入院病床の増床です。これまで新築移転に伴う10%病床数削減のため総病床数179床で運用していましたが、受診される患者さんも増加し、とくに救急外来に来院される患者さんの増加が著しく、救急車の来院台数も昨年は年間1197台を数えるに至りました。このため入院病床が足りず、皆様

には入院期間をできるだけ短くしていただきながらなんとかやりくりをしてきましたが、病床不足のため入院をお断りせざる得ないこともあり、ご不便をおかけしました。あらためましてお詫び申し上げます。このような状況の中、美里町のともち未来病院の事業譲渡を受け、本年4月から病床を25床増床し、宇城総合病院は総病床数204床の病院としてスタートすることができました。この増床が病床不足の解消につながり、さらには皆様へのサービス向上に繋がるよう努めてまいります。ご尽力いただきました関係の方々に感謝申し上げます。

二つ目は外来診療の紹介型への移行です。病床数200床以上の病院では初回受診（初診）の際には他医療機関からの紹介状が必要とされています。当院も4月1日から204床の病院となりましたので、初回受診時にはかかりつけの先生からの紹介状を持参していただきますようご案内申し上げます。

おります。外来診療に関する変更点等につきましては随時お知らせをしておりますが、まだご不明な点などおありかと存じます。その際は遠慮なく病院にお問い合わせください。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

三つ目は地域包括ケア病棟の設置です。これまで急性期治療後の受け入れの病床として、入院期間が比較的長い亜急性期病床がありましたが、2014年度診療報酬改定では、亜急性期病棟が14年9月末で廃止となり、それに代わるものとして「地域包括ケア病棟」が新設されました。その役割として、①急性期病床からの患者さんの受け入れ、②在宅等におられる患者さんの緊急時の受け入れ、③在宅への復帰支援の3つの機能が挙げられています。急性期治療のあと2か月間入院可能で、自宅や施設などでの生活に向け十分な療養をしていただくことや在宅への復帰支援が可能となります。もちろん当院の急性期のみでなく、高度急性期治療を他院で受けられた方々も地域での在宅復帰へ向けた治療や支援を受けることが可能です。5月1日より設置運用が許可され、西3病棟（50床）で運用を開始しました。地域の患者さんに

とって必要性の高い有用な病棟になると思います。継続して運用してまいりますのでご不明の点などございましたら病院へお問い合わせください。

大きな変革期を迎えています。地域の医療機関、介護施設、あるいは高度急性期病院などの相互連携の重要性がますます増していくと思います。密に情報交換をしながら地域の中核病院としてその役割を果たしていく所存です。

宇城総合病院は旧宇賀岳病院から通算して開院30周年を迎えました。これを機に正面玄関前に記念植樹を行いました。緑が豊かに育ち、四季折々の花が咲くようになり来院される皆様方や職員の寛ぎの場となればと願っているところです。病院には決して豪華さや派手なパフォーマンスはありませんが、誠実な医療を実践しながら地域に貢献できる病院であり続けられるよう、そして信頼される優しい病院になれるようスタッフ一同努力を続けてまいります。皆様には変わらぬご支援、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

当番体制今昔

診療部長 小山田 直朗



宇城総合病院の前身である宇賀

岳病院が開設されて30年以上が経過いたしました。病院の名所・場所は勿論のこと、業務内容も大幅に変わりました。今回は病院業務の一つである当直について、私見を交えてお話をさせていただきます。

残された資料から遡ると、H16年度は「土日祝日は非常勤医師一人・平日は常勤医一人」での当直体制でした。非常勤当直医のドタキャンで苦勞した記憶が蘇ります。非常勤当直医を個人契約ではなく、熊本大学の医局からの派遣に切り替えながらも、この体制が長く続きました。H24年10月現住所に移転して、宇城総合病院と名称も変

更されたことは記憶に新しいところです。H25年4月からは熊本大学整形外科教室の協力を得て、週3日ではありますが、平日常勤医師一人と非常勤医師一人の二人体制になりました。現在は土日祝日も一部を除き二人当直体制を組んでいます。

地域医療を掲げる当院ですが、信頼と評価を得られているのは、断らない医療に対する努力と姿勢によるものと考えます。その象徴が救急車受け入れでしょうか。ここ数年間の救急車受け入れは、年間100台弱のペースで増えており、H26年は1400台を窺うところまで来ています。掛かり付けの病院から救急要請を断られた結果、当院に搬送される例も少なくないのはご存知のとおりです。宇城地区の救急病院として、概ねその重責を果していると思います。大変なのは当直時間帯の救急車受け入れです。少数の医師と看護師で、救急外来において初期対応を

いたします。診察と患者背景の聞きだし、検査指示と診断・初期治療（モニタリング・酸素吸入・点滴・鎮痛剤投与など）、付き添い者への説明などでかなりの時間を要します。他の診察希望患者を待たせることも少なくありません。ほぼ半数の患者が入院となるため、入院時の指示にもまた時間が掛かることとなります。

当直の翌日には、当然のことですが中等症から重症の担当患者が増えることとなります。また出勤してきた朝に当直医からの引継ぎで、前日入院した患者の担当になることもしばしばです。高度な医療には専門性が欠かせませんが、救急には汎用性も必要です。私自身は消化器内科が専門領域ですが、肺炎患者も担当すれば脳卒中患者の主治医にもなります。地域の病院において、少数の医師で当直業務を効率よく実施するためには、幅広く診療できることが重要であると思います。チームワークの良さが求められることは、改めて言うまでもありません。平日のいわゆる日勤と言われる時間帯よりも、医師が当直している時間帯（土曜日の午後・日曜日・祝日を含む）



新任医師紹介



循環器内科医
澤村 匡史

この度、ご縁あつて宇城総合病院で勤務させて頂くことになりました澤村匡史（さわむらただし）です。循環器内科を専門にしています。卒業後22年間、大学の医局とは関わりを持たず、気の向くままにいくつかの病院を渡り歩いてきました。カテーテルインターベションやCCUで重症患者の管理をすることが多かったのですが、慢性期・回復期の管理には慣れないことも多く、皆様にご迷惑をおかけしていると思いますが、

早く慣れる様に頑張りたいと思います。家にはトイプードル一匹と、90cmの熱帯魚水槽があり、週末にはこれらの世話をしたりダラダラと過ごすこともあります。2ヶ月に1回のペースでAHA-BLS、ACLSのインストラクターもしています。まだ受けた事が無い方で、興味をお持ちの方は是非お声をかけてください。どうぞよろしくお願い申し上げます。



消化器外科医
多森 靖洋

平成26年4月から宇城総合病院消化器外科で勤務することとなりました多森と申します。平成5年に、熊本大学医学部附属病院 第2外科学教室へ入局し、今年で医師21年目になります。これまで、済生会熊本病院、国立病院機構熊本医療センター、熊本中央病院などで勤務し、消化器外科手術、呼吸器外科手術、救急医療などに携わってきました。現在まで培ってきました知識、経験を生かして、宇城地域の医療に少しでも貢献し

たいと思っております。色々と御迷惑をおかけすることもあるとは存じますが、御指導、御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。





消化器外科医
井上耕太郎

はじめまして。この4月から宇城総合病院で消化器外科医として勤務させて頂いております。新任にあたり自己紹介させて頂きます。

わたくしは、熊本大学を卒業後、第二外科に入局して以来、当初は消化器外科のみならず消化器内科、地域医療も含めて指導をうけておりました。後半は主に消化器外科医として経験を積んできました。

前任は済生会熊本病院で約5年間、消化器外科医、腹部救急外科医としてほぼ毎日、昼夜を問わず、時には一日複数の手術を担当し、自分なりに多くの経験をさせて頂いたつもりです。特に高度専門のチーム医療体制を要する胆膵領域悪性腫瘍手術を中心に担当しております。最近需要が非常に多

くなった腹腔鏡下消化管手術も平
行して手掛けておりました。

現在の高齢化社会には様々な問題があります。医療に関してもその問題は大きく、時代、場所、状況に応じた対応がますます要求されています。特に地域医療においてはその必要性が非常に高いと思います。これまでの経験を活用し、患者さんのご希望に添う治療を提
供できるように努力していきます。
新任病院であり、まだまだ不慣
れで至らない点があるかと思いま
すが、宇城地区の地域医療におい
て、時代、場所、状況に応じた医
療をできればと考えております。
今後ともよろしくお願い申し上
げます。



麻酔科医
荒川 和也

この4月より勤務しております。出身は三角で、今も三角の家から通勤しております。医師12年目で、これ

うな合併症が起きないように、できるだけ楽に痛みとお付き合いできるようなサポートをしておりま
す。

までは救急、麻酔、離島・僻地医療などに関わってきました。専門は麻酔です。麻酔と言ってもわかり辛い部分があるかと思いますが、基本的には手術の時に安全に、且つ痛みが少なく、身体の負担が少なくて済むように全身管理をする仕事です。単に眠らせたり、痛み止めの注射をしている訳ではありません。

この春からは外科の先生も増え、手前味噌ではありますが麻酔科の体制も強化され、当院で緊急手術などの対応がこれまで以上にできるようになりました。これからこの宇城地区の皆様、より安全で質の高い医療を提供できると
思います。どうぞよろしくお願い
いたします。

その他にも、ペインクリニック
と言って、痛みの治療を外来で行
ったりしています。痛みは慢性化
すると、さまざまな神経障害・体
調不良を引き起こします。そのよ

リハビリ & 栄養科便り

宇城総合病院のスマートライフプロジェクトの一環として『第2回スマートライフ講座』が、5月26日にリハビリテーション室で開催されました。

今回は、『身体に良いダイエット～運動編&食事編～』をテーマに、理学療法科と管理栄養科が共同で開催しました。

病院職員を対象とし、コメディカル部や看護部、医事課など14名の職員の方々が参加されました。

近年ダイエットに関して様々な情報が飛び交っていることから、それぞれの専門職の立場から、正しい情報を提供しようと企画しました。

理学療法科からは、体脂肪を消費するための効果的な運動やきれいな体を作るために必要な運動について、有酸素運動や筋力トレーニングなど種類別にお勧めの運動を紹介しました。

栄養科からは、健康的に痩せる為には①適正なエネルギーを摂取する事、②食事は1日3食規則正しく食べる事、③ダイエット中の間食は低カロリーで食物繊維が多いものが適している事、④ダイエットの運動は軽食を摂ってから行ない、運動後はたんぱく質やビタミン類を摂る事など、ダイエット中の食事についての留意点をお伝えしました。

参加された職員の方々も真剣に受講していました。

受講後の感想には、「とても勉強になった。興味深かった」との意見の他に、「ダイエットや筋トレに挑戦してみようと思う」などと意欲的な声も聞かれ、参加された職員の方々の健康増進に少しでも貢献できたのではな

いかと自負しています。

リハビリテーション部では今後も年間3～4回程度、スマートライフ講座を開催していく予定です。宇城総合病院職員の健康促進を目標に、プロジェクトチームメンバーを中心に頑張っていきます。





前号は高額療養費制度の記事でした。

高額療養費制度とは、暦月の医療費が自己負担限度額を超えた時に、ご加入の医療保険に申請することで、自己負担限度額を超えた金額が戻ってくる制度です。

但し、申請から実際にお金が戻ってくるまでに二〜三ヶ月かかることと、後で払い戻されるにしても一度は高額な医療費を支払う必要があるという問題が生じます。そこで、ご加入の医療保険の窓口で限度額適用認定証の交付を受けておくと、高額療養費の申請をしなくても自己負担限度額までの支払いで済むようになります。

ここでは、国民健康保険や後期高齢者医療制度に加入している方が利用できる限度額適用認定証について説明します。

限度額適用認定証

限度額適用認定証とは、入院や外来診療・調剤薬局等での医療費の支払い額が、国が定める自己負担限度額を超えて高額となる時、窓口での支払いを法定の自己負担限度額までに留めるこ

とができるものです。限度額適用認定証の提示により予め多くお金を準備するなどの経済的負担を軽減することが出来ます。但し、法定の自己負担限度額は被保険者の所得区分で異なりますので注意が必要です。

限度額適用認定証の申請窓口は、本人の住民票がある市町村役場となります。申請時は、保険証（国民健康保険証や後期高齢者医療被保険者証）と本人の印鑑（認印で可）をご持参ください。

この認定証を医療機関等の利用時に受付窓口で提示すると、医療費や入院時の食事代が認定証に記載された区分にて請求されます。尚、後期高齢者医療制度や七十歳以上の国民健康保険に加入されている方は、世帯の全員が住民税非課税の場合などが限度額適用認定証の対象となります。詳細は申請窓口にご相談ください。

私たち医療福祉相談室（地域医療連携室）では、本人さんやご家族が安心して生活を送っていただけるよう、不安や悩みに寄り添い支援いたします。お困りのことがありましたら気軽に尋ねてください。



● 相談をご希望の方へ ●

担当医や看護師に申し出ていただくか、直接医療福祉相談室（地域医療連携室）にお越しください。

* 事前に電話などで面接のご予約をしていただくことも出来ます。

また、電話でのご相談もお受けいたします。

医療福祉相談室（地域医療連携室）

- 時間 / 月曜日～土曜日 8:30～17:30
- 場所 / 1階（外来30番受付斜め前）
- 電話 / 0964-32-3218（直通） 0964-32-3111（代表）

外来初診時は紹介状が必要です

平成26年4月1日をもって増床により200床以上の医療機関へ移行しました。これに伴い、外来初診時は紹介状が必要となりました。つきましては、他の保険医療機関等からの紹介状がなく、当院に直接来院される患者さんについては、初診に係る費用として2,000円をお支払い頂くこととなりましたので、何卒ご理解下さいますようお願いいたします。

(ただし、緊急その他やむを得ない事情により、他の医療機関からの紹介によらず来院した場合にあってはこの限りではありません。)

◆ 外来診療医師一覧表 ◆

平成26年6月2日更新

診 療 科			月		火		水		木		金		土	
外 科		午前	新来	多森靖洋	前田健晴	松田貞士	栗崎 貴	井上耕太郎	担当医 救急対応					
			再来	多森靖洋	江上寛／前田健晴	松田貞士	栗崎 貴	井上耕太郎						
		午後担当医		多森靖洋	前田健晴	松田貞士	栗崎 貴	井上耕太郎						
内 科	消化器内科	午前	新来	小山田直朗	—	小山田直朗	采田憲昭	小山田直朗						
			再来	小山田直朗	—	小山田直朗	采田憲昭	小山田直朗						
	呼吸器内科	午前	新来	米良昭彦	福田秀明／米良昭彦	福田秀明	米良昭彦	福田秀明						
			再来	米良昭彦	福田秀明／米良昭彦	福田秀明	米良昭彦	福田秀明						
	循環器内科	午前	新来	澤村匡史	中村亮斉(非)	泉家康宏(非)	澤村匡史／上村智明(非)	澤村匡史						
			再来	澤村匡史	中村亮斉(非)	泉家康宏(非)	澤村匡史／上村智明(非)	澤村匡史						
	神 経 内 科	午前	新来	—	—	俵 望(非)	—	—						
			再来	—	—	俵 望(非)	—	—						
	一 般 内 科	午前	新来	—	盛三千孝	—	—	—						
			再来	—	盛三千孝	—	—	—						
	内 科		午後担当医	米良昭彦	盛三千孝	福田秀明	澤村匡史	福田秀明						
	整形外科		午前	新来	山城和馬	担当医	大多和聡	藤枝浩司(非)						赤城哲哉
再来				山城和馬	担当医	大多和聡	藤枝浩司(非)	赤城哲哉						
午後担当医			山城和馬	担当医	大多和聡	藤枝浩司(非)	赤城哲哉							
小 児 科		午前	新来	板井義男	板井義男	板井義男	板井義男	村上幹彦(非)／板井義男						
			再来	板井義男	板井義男	板井義男	板井義男	村上幹彦(非)／板井義男						
		午後担当医		板井義男	板井義男	板井義男	板井義男	板井義男						
麻酔科 (ペインクリニック)		午前	新来	井賢治 又は荒川和也(非)	—	井賢治 又は荒川和也(非)	—	—						
			再来	井賢治 又は荒川和也(非)	—	井賢治 又は荒川和也(非)	—	—						
泌尿器科				中村武利	—	—	中村武利	—						
放射線科		読影担当医		前田陽夫	前田陽夫	前田陽夫	前田陽夫	前田陽夫	—					
リハビリ科				江上 寛	赤城哲哉	中野 章	赤城哲哉	中野 章	—					
救命救急センター		外 科 系		栗崎 貴	松田貞士	前田健晴	井上耕太郎	多森靖洋	担当医 救急対応					
		内 科 系		澤村匡史	福田秀明	小山田直朗	米良昭彦	小山田直朗						
		整形外科系		山城和馬	担当医	大多和聡	藤枝浩司(非)	赤城哲哉						
糖尿病センター				竹田晴生	竹田晴生	竹田晴生	竹田晴生	竹田晴生						
腎透析センター		～15時		盛三千孝	中村武利	盛三千孝 又は中村武利	盛三千孝	中村武利	盛三千孝 又は 中村武利					
		15時～		盛三千孝	—	盛三千孝 又は中村武利	—	中村武利						
リハビリテーション センター		午 前		《受付時間》 9:00 ～ 11:30					—					
		午 後		《受付時間》 13:30 ～ 15:30										
健診センター		担当医 予約制		采田憲昭	采田憲昭	采田憲昭	—	采田憲昭	—					

※(非)：非常勤医師

平成26年度 理念、基本方針

理念

私たちは信頼される医療を
ととして地域に貢献します

基本方針

- ・良質で安全な医療を実践します
- ・診療機能の充実を図り 地域のニーズに応えます
- ・接遇の向上に努め 快適な診療環境を提供します
- ・情報を公開し 公正な管理運営を行います
- ・勤務環境を改善し 魅力ある職場をつくります